

台湾ですくすく育つ1000本の河津桜

今年の2月14日、育桜会と本会が台湾の李登輝之友会全国総会へ寄贈した河津桜の苗木1000本が、贈呈式と仮植樹が行われた南投県の名間苗圃ですくすくと育っている①②③。

4月27日、李登輝之友会全国総会の黄崑虎総会長らが仮植えされた桜の様子を視察に訪れた。この視察には、すでに河津桜140本を大切に育てて花を咲かせ、さらには接木にも成功している新竹李登輝之友会の江日盛氏らも同行した④。

桜の苗木はきれいに並べて植えられ、水道を引いて灌水設備を整え、また回りにフェンスを張り巡らし盗難防止策を施している。近くには技術者の宿舍も建ててあり、台湾側の力の入れようは並大抵ではない。本会では来年2月にまた寄贈する際に、念願の「花見ツアー」を予定している。



①



②



③



④

【巻頭言】

日本の無策が招いた台湾の反日化

本会常務理事・事務局長 柚原 正敬
ゆはら まさたか

今年に入り、「世界一の親日国」と言われる台湾の雲行きがおかしい。反日的様相が濃くなってきた。

今年二月十八日、台北県政府は烏来^{ウライ}の高砂義勇隊慰霊碑の撤去を一方的に命じ、二十四日、周りの日本語記念碑を撤去した。慰霊碑はベニヤ板で蔽われ、李登輝前總統の揮毫になる「靈安故郷」の碑文は封印された。

また三月下旬には、国民党主席の馬英九氏が市長の台北市が、日本時代に「台湾教育の聖地」とされた芝山巖^{しやんがん}の「学務官僚遭難之碑」を移設の方針だと報道された。

さらに、四月八日には陳水扁總統の与党・民進党が、日本の台湾割譲時に台湾住民が日本軍と戦った歴史に光をあてるためだと、八月二十八日を「台湾人民抗日記念日」として制定すべく検討を始めたと表明した。

尖閣諸島は中華民國の領土だと強調する馬英九氏率いる国民党は、抗日英雄を顕彰する反日キャンペーンを展開している。国民党所属の台北県知事は馬主席の強い影

響下にあり、高砂義勇隊慰霊碑撤去は国民党の反日政策を反映した動きと理解できる。

台北市の学務官僚遭難之碑移設方針も、その流れにある。だが、高砂義勇隊慰霊碑撤去の強引な手法が住民の強い反発を買ったことが影響したのか、この移設方針は元々なかったものとされた。そのまま残されるという。

腑に落ちないのは民進党の「抗日記念日」制定方針である。民進党は、盧溝橋事件勃発の七月七日を抗日記念日としている国民党と趣旨は違ふと抗弁するが、今、なぜ中国の日台離間策にも乗ずるような方針を取ろうとしているのか。反日世代が多い党内事情もあるが、支持率が低迷する与党の人気取り政策であろう。

だが、総じて台湾の反日化は日本の対台湾政策の無策が招いたと言える。台湾は日本の生命線であり、台湾の将来は台湾人が決めるべきを、日本は今こそ世界に向けて表明し、明確な台湾政策を打ち出すべきである。